

## 2. 教育および管理運営への提言

### 牧場実習に対する学生の評価

紙 屋 茂

#### 目 的

入来牧場では147haの中標高山地で牛・馬を合計370頭ほど飼養し、教官1名と技官8名のスタッフで農学部畜産分野の実習を行っている。実習は家畜生産に関する技術や労働について、6日間の合宿で行われる。本調査は牧場で行う実習内容を改善する基礎飼料を得るため、学生が実習をどのように評価しているかをアンケートで調査した。

#### 材料と方法

1992年5月に行われた獣医学科3年生の実習について、受講生が実習をどのように評価しているかを知るために、実習終了直後に男子24名および女子12名の合計36名にアンケート調査した。

#### 結果と考察

第1図に実習における学生自身の評価を示した。男女とも自分はよくやったと評価し、特に女子学生にその傾向が見られた。一般に生産労働の経験が少ない学生にとって、ある程度充実感をもてる実習になっていたことがうかがえた。また、規則的な団体生活であるため、期間中は健康状態が優れると評価する学生が多くみられた。

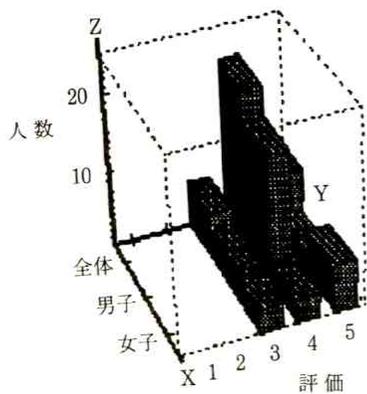
第2図に牧場スタッフの態度・物腰・情熱の評価を示した。現場では3班に分かれ、技官が指導する場合が多く、牧場スタッフの態度・物腰・情熱および信頼・正義・平等感等について高く評価していた。このことから牧場スタッフの日頃の仕事に対する姿勢は指導効果を高める上で非常に重要であることがうかがえた。

第3図に実習内容に対する興味や刺激についての評価を示した。興味や刺激の程度が必ずしも高くはないとする評価も見られ、いくつかの分野では更に指導内容を深めることが必要であることが推測された。

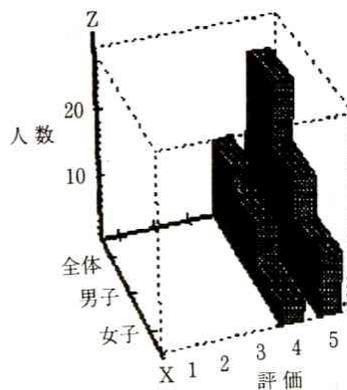
第4図に実習内容特別時間配分についての評価を示した。時間配分についての評価は大きく分散した。これは実習が3班に分かれ、牧場の業務の流れに沿う形でおこなわれるため、天候の都合も加わり、計画どおりにプログラムを進めることが困難であることを反映した結果であると思われる。

第5図に説明内容の分かりやすさの評価を示した。分かりやすさに対する評価も大きく分散し、2や3の評価がかなり見られた。このことから、分かりやすい話し方について、スタッフの力量を更に高める努力が必要であると思われる。

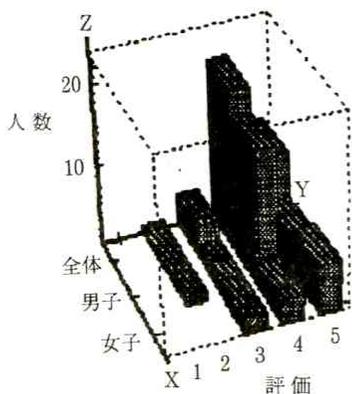
第6図に学部での平均的な講義と比較した実習の評価を示した。男女とも実習に対して高い評価を示した。このことから実習では、スタッフの協力により工夫された実習を行うことで、講義とは異なる意味で教育効果を発揮する可能性が高いことが推察された。



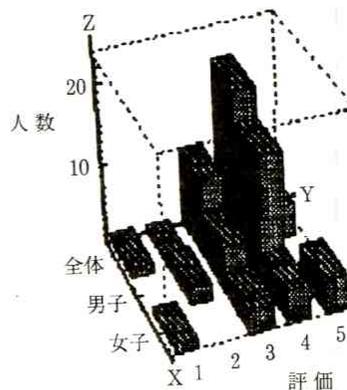
第1図 実習での自分自身の評価



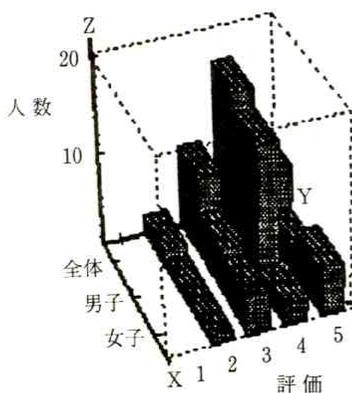
第2図 牧場スタッフの態度・物腰・情熱



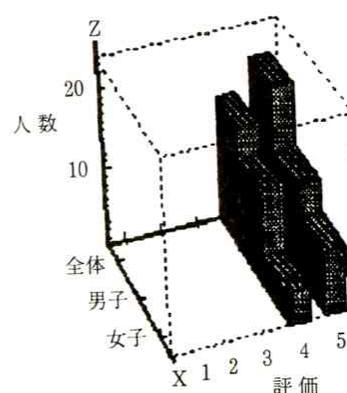
第3図 実習内容に対する興味や刺激の程度



第4図 実習内容別時間配分についての評価



第5図 説明内容の分かりやすさ



第6図 平均的な講義と比較した実習の評価